

# 中高生の部活動 継続の課題

川崎市立川崎総合科学高等学校 剣道部顧問 浅田勇樹

# 顧問経歴

平成14年度～ 川崎市立南加瀬中学校剣道部顧問

平成19年度～ 川崎市立中野島中学校剣道部顧問

平成28年度～ 川崎市立稲田中学校剣道部顧問

令和6年度～ 川崎市立川崎総合科学高等学校剣道部顧問

- ・川崎市中体連剣道専門部長（平成30年度～令和4年度）
- ・神奈川県中体連剣道専門部競技力向上委員（平成23年度～令和5年度）
- ・神奈川県高体連剣道専門部委員（令和6年度～）

# 高校の部活動での課題

## ○運動部の部員が少ない

多くの学校が部員の確保に課題を抱えている。団体戦も3学年合わせてようやく5人揃えて出られている学校も少なくない。

本校も現在男子2名、女子1名の3名で活動を行っている。土日の活動は積極的に他校との合同稽古を組み、活動が盛り上がるようにしている。また、部員数の少ない高校の顧問同士で連絡を取り合い予定を立てている。

# 高校の部活動での課題

## ○アルバイト、サークル活動との兼部、勉強など

昔に比べ、生徒の活動の幅が広がってきている。やりたいと思う活動が校則で認められているので、まだ経験したことのない活動（アルバイトや中学校になかった部活やサークル）に興味を持ち、これまで頑張っていた活動から離れる生徒も多いように感じる。

# 高校でも部活動を継続するために

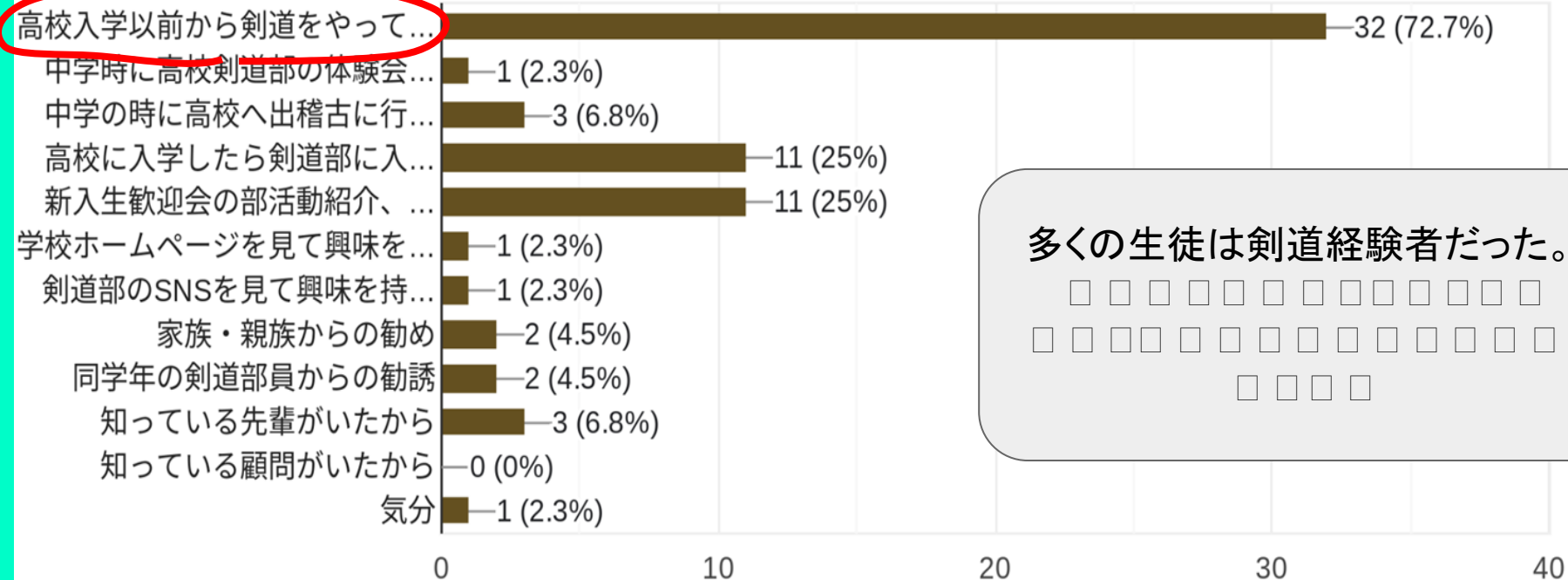
高体連剣道専門部調査研究部が、新チームの段位別個人戦の大会終了後にアンケートを行い、44名の生徒から回答を得られた。

44名の内訳は男子26名、女子18名

剣道経験者は37名、未経験者は7名であった。

### 3) 現在の高校の剣道部に入ったきっかけを教えてください (複数回答可)

44 件の回答

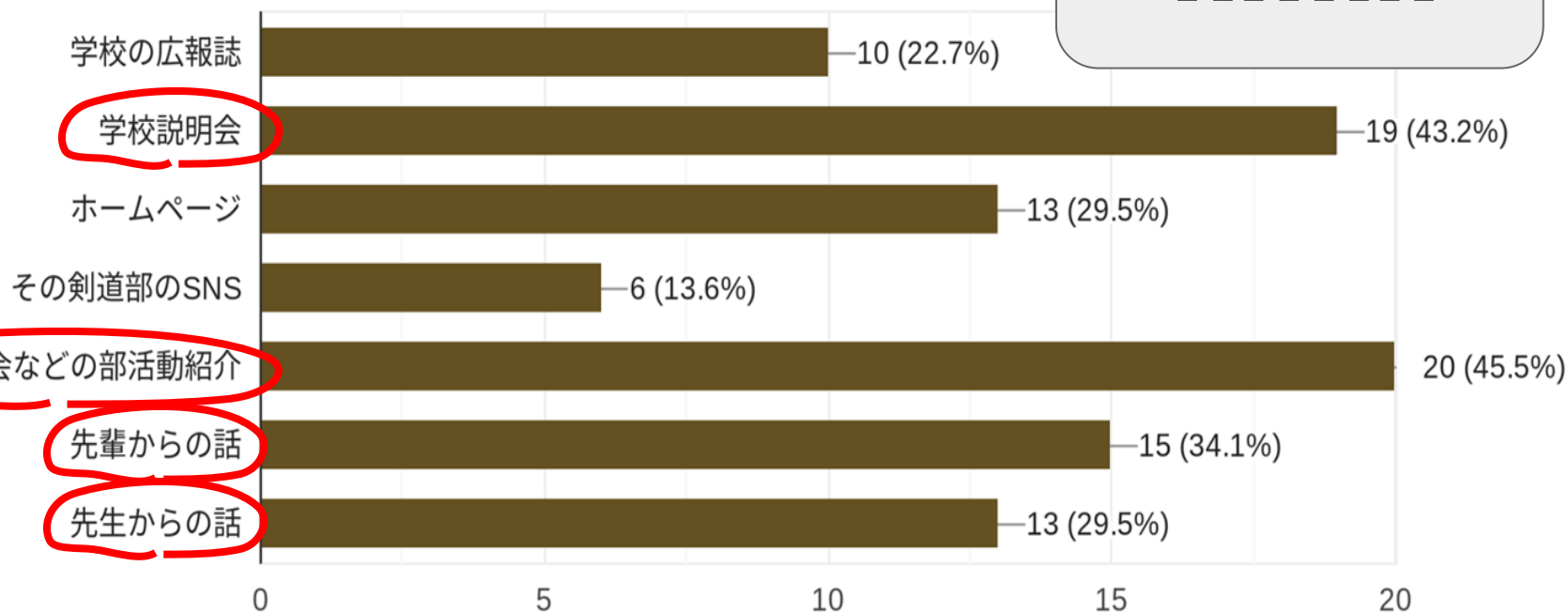




## 5) 剣道部についてどのように情報収集しましたか (複数回答可)

44 件の回答

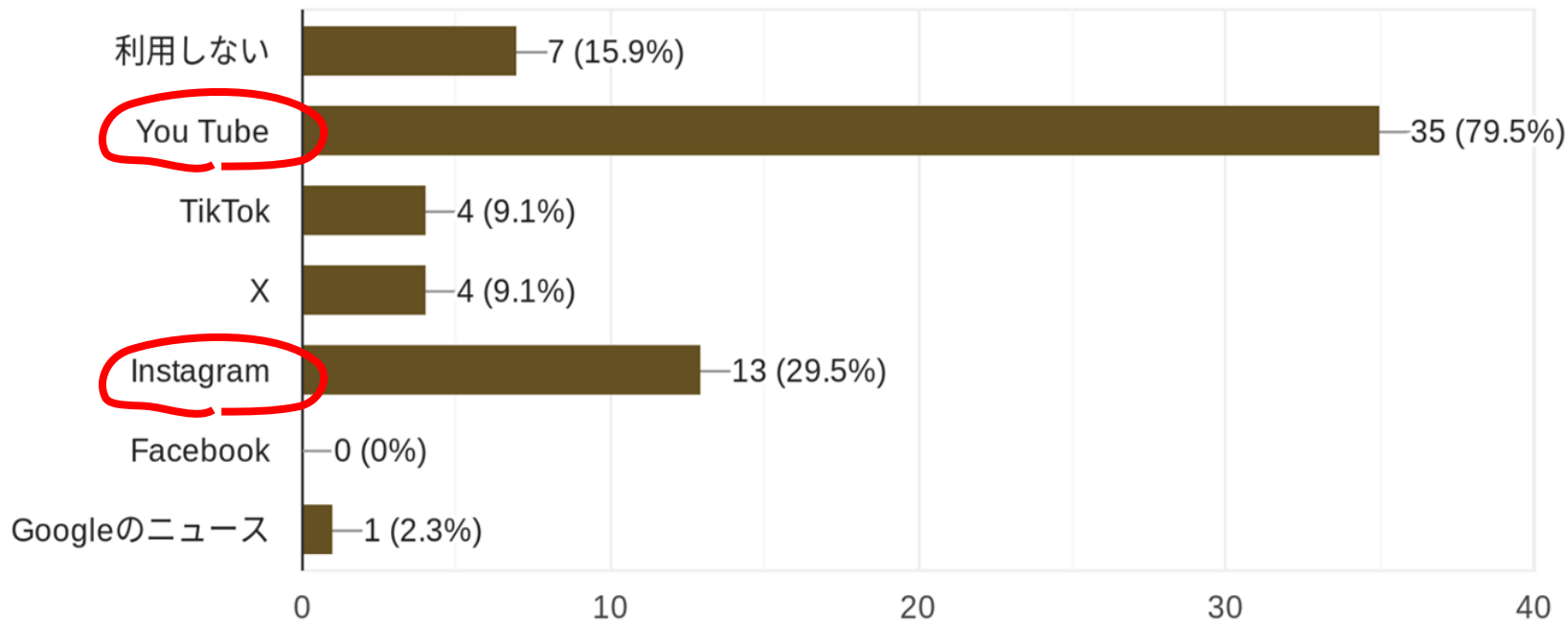
『人から直接話を聞く』





## 6) SNSを利用して剣道に関する情報を得る場合、何を利用しますか（複数回答可）

44件の回答





# アンケートで注目した点

## SNSかリアルか

アンケートの結果から

- ・ どうやって剣道部の情報を得たか

→先輩や顧問の話、学校説明会等：40名    ホームページ：4名

- ・ どんな情報発信が有効と考えるか

→SNS：28名    学校説明会：12名

今結果を残しているのはリアル、しかしSNSへの期待は大きい

# リアルで伝えるべき継続することの価値

継続した活動の先に何があるのか（何を得られるのか）？

技術、経験、実績、仲間  
友人、自信、思い出

ここで得られるものの価値観を我々はしっかりと伝えていきたい。

# まとめ

## 『わ』をつなぐ

和・輪・話 をつないでいく、広げていく、実践する

部活動継続のため必要な要素

同期・先輩・後輩・友達・ライバル・地元の人

合同稽古・顧問同士の交流・開けた環境づくり

中高連携